

平成25年度「ながさき水産業大賞」受賞者の概要

1. 長崎県知事賞

部門名	受賞者名	概要
次世代へつなぐ海づくり部門	勝本町漁協 県外いか釣船組合 (壱岐市)	日本海におけるスルメイカ漁場開拓の先駆者であり、本県いかつり漁業の中心的役割を發揮し、集魚灯の光力規制や一斉休漁日による資源管理、LED集魚灯導入に係る実証事業の実践やブランド化など流通改善に取り組み、本県いかつり漁業に貢献している。
収益性の高い経営体づくり部門（団体の部）	対馬あなご籠実行組合 (対馬市)	「対馬西アナゴ」のブランド化に向けて「対馬あなご祭り」開催や大都市圏でのPRに取り組み、高品質の評価を得て魚価の向上に繋がったほか、他漁業との調整により操業秩序の維持や小型アナゴの資源保護などに寄与している。
収益性の高い経営体づくり部門（個人の部）	<small>よしむら もとし</small> 吉村 元嗣 (対馬市)	ブリ・タイ延縄など多種類の漁法を独自改良し漁獲を向上させるとともに、これを広く公開し普及に努め、地域漁業の発展に貢献している。また、マグロ養殖において、天然種苗の生残率を向上させ、得られた知見を大学等へ提供し、本県の沿岸漁業、養殖業の振興に寄与している。
活力ある漁村づくり部門	上対馬町漁業協同組合青壮年部 (対馬市)	青壮年グループ活動を通じて、新漁法の導入、魚食普及、海難防止、漁場保全などの取組を多岐に亘って展開し、地域漁業の発展に貢献している。 また、タチウオの「銀太」、アカアマダイの「紅王」のブランド化に成功したほか、震災被災地への支援など率先した活動は他地域への模範となっている。

2. 長崎県漁業協同組合連合会長賞

部門名	受賞者名	概要
次世代へつなぐ海づくり部門	五島ふくえ漁協 久賀島潜水部会 (五島市)	磯焼け対策に取り組み、ウニの適正管理により藻場の回復とウニの身入りを改善するとともに、他漁協婦人部との連携より食害動物（ガンガゼ等）を有効活用し加工食品化に繋がった。
収益性の高い経営体づくり部門（団体の部）	九十九島漁業協同組合 (佐世保市)	全国有数の煮干産地として、六次産業化に向け農業・商工業が連携したユニークないりこ加工品の開発に取り組み、煮干の消費拡大に貢献するとともに、「九十九島トラフグ」のブランド化の取組など漁業者の経営安定に寄与している。
収益性の高い経営体づくり部門（個人の部）	<small>きたの ひろし</small> 北野 寛 (島原市)	「ワカメ養殖研究会」の結成や未利用メカブの共同出荷体制の構築に貢献するとともに、茹で釜により湯通しの大量処理方法を考案し普及させ、地域のワカメ養殖の安定生産に寄与した。
活力ある漁村づくり部門	さいかい井協議会 (西海市)	地元産水産物等を食材に、市内飲食店がオリジナル井を提供する「さいかい井」フェアを開催し、生産者の手取向上、地産地消など地域活性化に貢献している。

3. 特別賞（ながさき水産業大賞運営委員会会長賞）

賞の種類	受賞者名	概要
特別賞	橘湾東部漁業協同組合 赤貝業者部会（雲仙市）	小型アカガイの再放流、保護区の設定など、アカガイの資源管理と操業秩序の維持に取り組み、水揚量が以前と比べ倍増し漁業者の所得向上に繋がるなど、他地域へ推奨すべき取組である。